

# 現地派遣型・オンライン型短期留学プログラム 学習成果分析報告書

---

2022年10月

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター  
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41

## 目次

調査概要 .....	3
報告書の概要 .....	4
調査回答者プロフィール .....	5
学習成果:外国語運用能力・異文化適応力・行動力 .....	9
学習成果:外国語苦手意識・海外での人的ネットワーク .....	18
学習成果:今後の国際交流活動への意欲の向上 .....	21

## 調査概要

---

### 【調査の目的】

東北大学高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター（以下、GLC）が実施した現地派遣型短期留学プログラムとオンライン型短期留学プログラムの学習成果を比較し、ポストコロナ期に向けた短期留学プログラムの在り方の計画に役立てる。

### 【調査対象者】

GLC が実施した2019年度の SAP(スタディーアブロードプログラム)の参加者(256名)及び2020年度と2021年度夏のオンライン留学特別プログラムの参加者(237名)

### 【調査方法】

GLC が実施した2種類の短期留学プログラム、SAP(以下、現地派遣型短期留学プログラム)とオンライン留学特別プログラム(以下、オンライン型短期留学プログラム)の参加者に、留学プログラム前後に3つのキーコンピテンシー(外国語運用能力・異文化適応力・行動力)について、5段階(1-全くできない、2-あまりできない、3-まあまあできる、4-よくできる、5-非常によくできる)で自己評価してもらった。その回答結果を現地派遣型短期留学プログラムとオンライン型短期留学プログラム間で比較した。

また、事後アンケート調査から、留学のインパクトに関する5つの質問(学習成果に関する質問2問と今後の国際交流活動に対する意欲に関する質問3問)への回答についても、2種類の短期留学プログラム間で比較した。

有効回答数は現地派遣型短期留学プログラムが188(有効回答率73%)、オンライン型短期留学プログラムが166(有効回答率70%)であった。

### 【調査実施組織】

東北大学高度教養教育・学生支援機構グローバルラーニングセンター

調査に関する問い合わせ先: [glc.study.abroad@grp.tohoku.ac.jp](mailto:glc.study.abroad@grp.tohoku.ac.jp)

(担当者:准教授 渡部 由紀)

## 報告書の概要

### 調査回答者のプロフィール

- 現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムの参加者は東北大学学部学生のプロフィールと比較して、文系学生、低学年、女子学生、海外経験有の学生が多いという類似した傾向が見られた。特に、オンライン型短期留学プログラムでは、女子学生が5割、海外経験有の学生が6割を占めた。また、2種類の短期留学プログラムの比較においては、オンライン型短期留学プログラムにおいて、理系学生と高学年次の学生の割合が高い傾向が見られた。

### 学習成果

- 現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムともに、プログラム参加者は、留学後に**外国語運用能力、異文化適応力、行動力**が向上したと認識していた。これら3つのキーコンピテンシーの留学前後の自己評価平均値の差は、外国語運用能力、行動力、異文化適応力の順に大きく、どちらの短期留学プログラムの参加者も、**外国語運用能力**が最も向上したと認識していた。また、オンライン型短期留学プログラム参加者よりも現地派遣型短期留学プログラム参加者のほうが、3つのキーコンピテンシーがより向上したと認識していた。
- 現地派遣型短期留学プログラム参加者の86%、オンライン型短期留学プログラム参加者の74%が、プログラム参加後に**外国語に対する苦手意識**が減少したと認識していた。
- 現地派遣型短期留学プログラム参加者の89%が**海外での外国人の友人等の人的ネットワークを構築**できたと認識していたが、オンライン型短期留学プログラム参加者は56%に止まった。
- 今後の国際交流活動である、**外国語で会話する機会、留学生との積極的な交流、今後の留学プログラムへの参加**に対する意欲は、現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムともに、参加者の大半が留学後に高まっていた。特に、オンライン型短期留学プログラム参加者において、今後の国際交流活動への意欲の高まりが高かった。

※ 参加者とは、現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムに参加し、調査に回答した者を指す。

## 調査回答者プロフィール

### 分析結果の概要

- 現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラム参加者のうち、2つの調査に回答した学生に関するデータ分析から、現地派遣型短期留学プログラムと比較して、オンライン型短期留学プログラムにおいて、①理系学生、②高学年次の学生、③女子学生、④過去に海外経験のある学生の割合が高い傾向が見られた。

### 回答者の学問分野

東北大学(学士課程)では、理系・文系の学生比が7対3となっている。留学プログラムの参加者は、一般的に文系学生の割合が高い傾向にあり、調査した2種類の短期留学プログラムの回答者においても、現地派遣型(42.8%)及びオンライン型(35.8%)ともに、文系学生が4割程度を占めていた(表1・図1)。しかし、オンライン型短期留学プログラムでは、理系学生が64.2%、文系学生が35.8%で、本学の理系・文系の学生比7対3に近いものとなっている。オンライン型短期留学プログラムは、夏・春季休暇期間中に集中講義や実験活動がある理系学生にとって、参加しやすい留学形態である可能性が考えられる(図1)。

表1. 学部別回答者数と割合

	現地		オンライン	
	回答者数	%	回答者数	%
文学部	25	13.4%	17	10.7%
法学部	19	10.2%	13	8.2%
経済学部	27	14.4%	19	11.9%
教育学部	9	4.8%	8	5.0%
理学部	11	5.9%	18	11.3%
工学部	63	33.7%	49	30.8%
農学部	11	5.9%	23	14.5%
薬学部	2	1.1%	1	0.6%
医学部	20	10.7%	10	6.3%
歯学部	0	0.0%	1	0.6%
合計	187	100.0%	159	100.0%
大学院生	1		7	

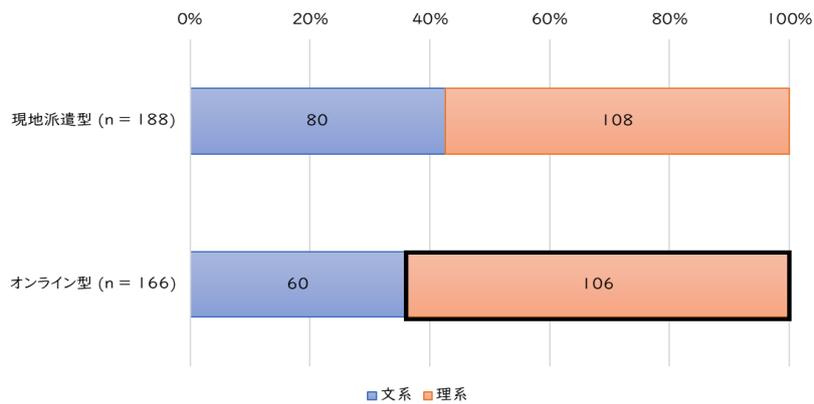


図1. 回答者の所属学部:文系・理系

### 回答者の学年

オンライン型短期留学プログラムでは、回答者の 16.8%が高学年次の学生（学部3年生以上）であった（図2）。GLCが実施する現地派遣型短期留学プログラムは低学年次の学生を参加対象者として優先しているため、一概に2つのプログラムを比較することはできないが、オンライン型短期留学プログラムは高学年時の学生に一定のニーズがあることが推察される。

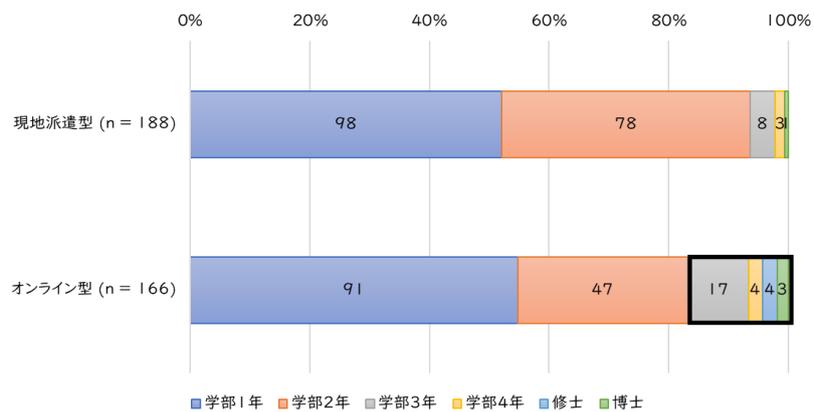


図2. 回答者の学年

## 回答者の性別

東北大学（学士課程）の学生の男女比は7対3となっている。留学プログラムの参加者は、一般的に女子学生の割合が高い傾向にあり、短期留学プログラムの回答者においても、女子学生が占める割合が、現地派遣型（35.1%）・オンライン型（50.0%）と高かった（図3）。特に、オンライン型では、回答者の半分を女子学生が占めていた。

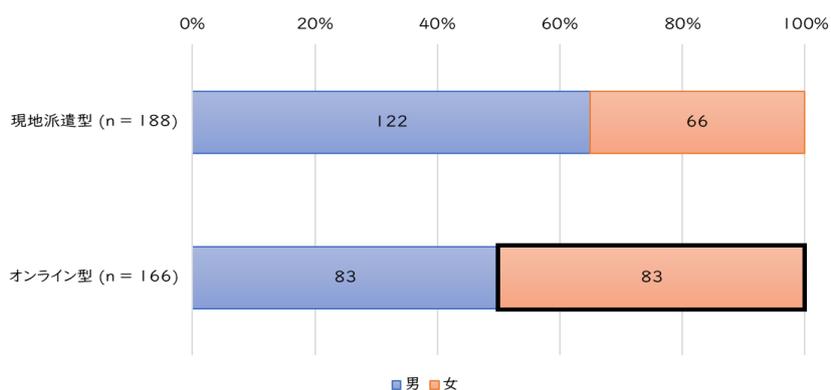


図3. 回答者の性別

## 回答者の過去の海外経験

過去に海外経験のある学生が、現地派遣型短期留学プログラムでは53.2%、オンライン型短期留学プログラムでは59.6%と、どちらのプログラムにおいても、回答者の半数以上を占めていた（図4）。オンライン型短期留学プログラムでは高年次の学生が2割弱を占めていたため、過去に海外経験のある学生が多いのも当然とも言える。そこで、1・2年生のみのデータを分析したところ、同様の結果となった（図5）。大学の留学プログラムは全ての学生にとってアクセス可能な教育機会である必要があり、過去に海外経験のある学生の占有率がこのまま増加していくことは必ずしも望ましいとは言えない。今後の参加者動向を注視する必要がある。

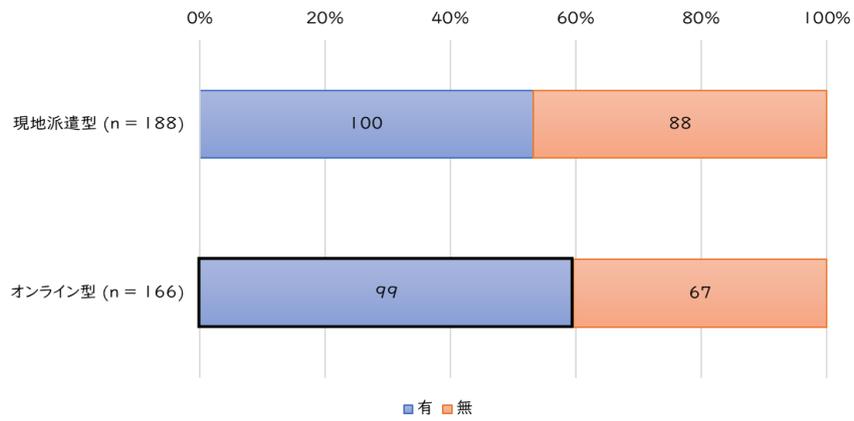


図4. 回答者全員の過去の海外経験

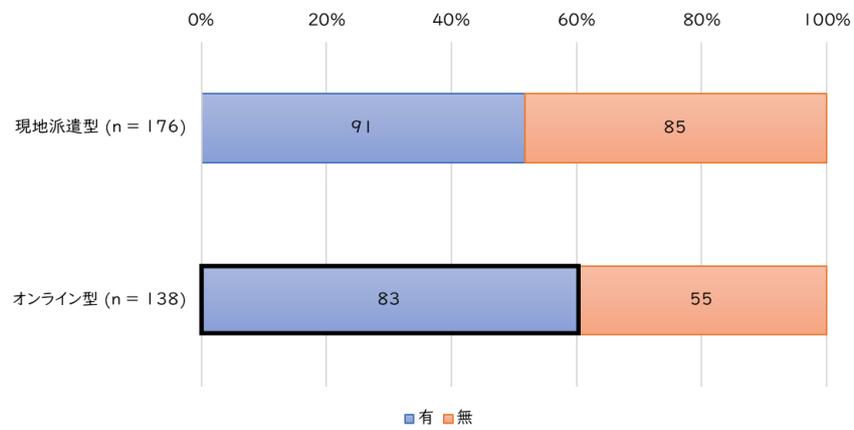


図5. 回答者(1・2年生)の過去の海外経験

## 学習成果:外国語運用能力・異文化適応力・行動力

### 分析結果の概要

- 現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムともに、3つのキーコンピテンシー（外国語運用能力、異文化適応力、行動力）の27指標に関するプログラム参加者の自己評価平均値は、留学前よりも留学後のほうが高かった。つまり、どちらのプログラム参加者も、留学後に外国語運用能力、異文化適応力、行動力が向上したと認識していた。
- 外国語運用能力、異文化適応力、行動力の27指標に関する参加者の留学前後の自己評価平均値の差は、オンライン型短期留学プログラム参加者よりも現地派遣型短期留学プログラム参加者のほうが大きかった。つまり、現地派遣型短期留学プログラム参加者のほうが、オンライン型短期留学プログラム参加者よりも、留学後に外国語運用能力、異文化適応力、行動力がより向上したと認識していた。

現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムの参加前後で、3つのキーコンピテンシー（外国語運用能力、異文化適応力、行動力）の27評価指標（付表1参照）に関するプログラム参加者の自己評価の変化について分析した。

2種類のプログラム参加者に、外国語運用能力の13指標、異文化適応力の5指標、行動力の9指標を留学前と後に5段階（1=全くできない、2=あまりできない、3=まあまあできる、4=よくできる、5=非常によくできる）で自己評価してもらった。留学前後での3つのキーコンピテンシーの変化、また、2種類のプログラム間での3つのキーコンピテンシーの変化の相違について検証するため、①～③の分析を行った。

- ① 現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムにおける、3つのキーコンピテンシー（外国語運用能力、異文化適応力、行動力）に関する27指標の留学前後のプログラム参加者の自己評価の平均値を算出し、図で示した。

- ② 3つのキーコンピテンシーに関する27指標のプログラム参加者の自己評価平均値が、留学前後で統計的に有意な差があるか（参加者は留学後にキーコンピテンシーの向上を認識しているか）を確かめるために、Wilcoxon の符号順位検定を実施した。
- ③ 3つのキーコンピテンシーに関する27指標のプログラム参加者の自己評価平均値が、現地派遣型短期留学プログラムとオンライン型短期留学プログラム間で、統計的に有意な差があるか（現地派遣型とオンライン型で、どちらの参加者群が留学後の自己評価が高まったか）を確かめるため、Mann-Whitney の U 検定を実施した。

### 留学前後での3つのキーコンピテンシーの自己評価結果

現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムともに、外国語運用能力の13指標、異文化適応力の5指標、行動力の9指標の自己評価平均値は、留学前後で平均値の差が 0.5 以上あり、留学後に自己評価が高まる方向に回答が推移した（図6）。留学前後の自己評価平均値の差は、オンライン型（外国語運用能力 0.75、異文化適応力 0.60、行動力 0.62）よりも現地派遣型（外国語運用能力 1.05、異文化適応力 0.79、行動力 0.86）のほうが大きく、現地派遣型短期留学プログラム参加者のほうが、キーコンピテンシーがより向上したと認識していた（図6）。

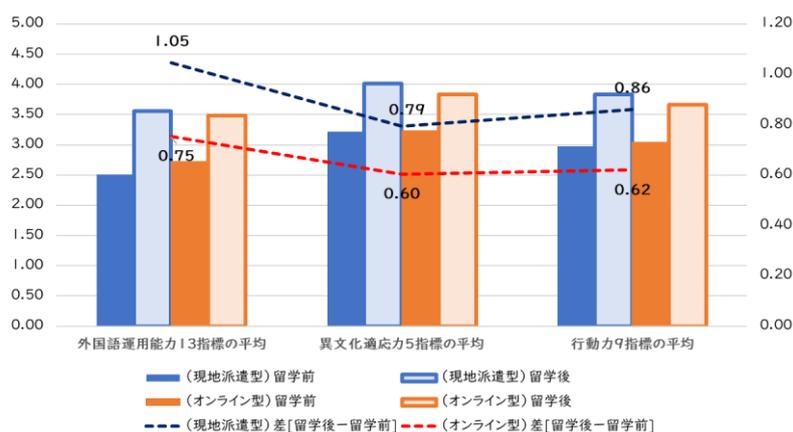


図6. 外国語運用能力・異文化適応力・行動力に関する留学前後の自己評価平均と平均差

3つのキーコンピテンシーのうち、どちらの短期留学プログラムにおいても、留学前後の自己評価平均値の差が大きかったのは、外国語運用能力（留学前後の自己評価の平均差：現地派遣型 1.05、オンライン型 0.75）、行動力（現地派遣型 0.86、オンライン型 0.62）、異文化適応力（現地派遣型 0.79、オンライン型 0.60）の順であった（図6）。どちらの短期留学プログラムの参加者も、外国語運用能力が最も向上したと認識していた。

### 外国語運用能力13指標の自己評価結果

外国語運用能力においては、現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムともに、13指標すべての留学前後の自己評価平均値の差が0.5以上あり、留学後に自己評価が高まる方向に回答が推移した（表2・3、図7）。次に、Wilcoxonの符号付き順位検定において、13指標すべてで、留学後の自己評価は、留学前の自己評価よりも統計的に有意に高かった（表2・3）。

表2. 現地派遣型短期留学前後での比較：外国語運用能力13指標の自己評価  
(Wilcoxonの符号付き順位検定)

No	外国語運用能力 13指標	留学前		留学後		平均差 (研修後－ 研修前)	Wilcoxonの符号順位 検定(両側検定)		効果量 (r)
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		Z	p	
1	外国語コミュニケーション力	2.22	0.70	3.69	0.68	1.47	-12.016	<.001**	0.88 (効果量大)
2	ライティング力1	3.18	0.78	3.97	0.74	0.79	-10.050	<.001**	0.73 (効果量大)
3	ライティング力2	2.11	0.76	3.20	0.92	1.09	-10.704	<.001**	0.78 (効果量大)
4	リーディング力1	2.56	0.78	3.60	0.79	1.04	-10.425	<.001**	0.76 (効果量大)
5	リーディング力2	2.21	0.80	2.96	0.85	0.75	-9.571	<.001**	0.70 (効果量大)
6	状況把握力	2.25	0.76	3.73	0.82	1.48	-11.585	<.001**	0.85 (効果量大)
7	傾聴力1	2.39	0.89	3.44	0.85	1.05	-10.361	<.001**	0.76 (効果量大)
8	傾聴力2	2.81	0.91	3.85	0.80	1.03	-10.409	<.001**	0.76 (効果量大)
9	伝達力	2.88	0.88	3.89	0.78	1.01	-10.524	<.001**	0.77 (効果量大)
10	説明力	2.05	0.73	3.17	0.80	1.12	-11.182	<.001**	0.82 (効果量大)
11	まとめる力	2.60	0.98	3.32	0.85	0.72	-8.899	<.001**	0.65 (効果量大)
12	プレゼンテーション力	2.07	0.73	3.28	0.88	1.20	-10.822	<.001**	0.79 (効果量大)
13	関係構築力	3.26	0.89	4.13	0.73	0.88	-9.869	<.001**	0.72 (効果量大)
	総得点	32.61	10.58	46.22	10.48	13.61			
	平均	2.51	0.81	3.56	0.81	1.05			

\*\* p<.01

表 3. オンライン型短期留学前後での比較: 外国語運用能力 13 指標の自己評価

(Wilcoxon の符号付き順位検定)

No	外国語運用能力 13指標	留学前		留学後		平均差 (研修後- 研修前)	Wilcoxonの符号順位 検定(両側検定)		効果量 (r)	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		Z	p		
1	外国語コミュニケーション力	2.72	0.88	3.70	0.81	0.98	-10.39	<.001 **	0.81	(効果量大)
2	ライティング力1	3.42	0.83	4.05	0.77	0.64	-8.59	<.001 **	0.67	(効果量大)
3	ライティング力2	2.32	0.93	3.23	0.91	0.92	-9.86	<.001 **	0.77	(効果量大)
4	リーディング力1	2.77	0.85	3.40	0.81	0.64	-8.37	<.001 **	0.65	(効果量大)
5	リーディング力2	2.43	0.82	3.08	0.83	0.66	-8.76	<.001 **	0.68	(効果量大)
6	状況把握力	2.54	0.91	3.42	0.90	0.88	-9.66	<.001 **	0.75	(効果量大)
7	傾聴力1	2.51	0.81	3.17	0.87	0.67	-8.48	<.001 **	0.66	(効果量大)
8	傾聴力2	3.01	0.92	3.62	0.94	0.61	-7.09	<.001 **	0.55	(効果量大)
9	伝達力	2.97	0.85	3.70	0.79	0.73	-9.09	<.001 **	0.71	(効果量大)
10	説明力	2.34	0.80	3.07	0.83	0.73	-9.27	<.001 **	0.72	(効果量大)
11	まとめる力	2.67	0.97	3.27	0.91	0.60	-8.02	<.001 **	0.62	(効果量大)
12	プレゼンテーション力	2.30	0.83	3.39	0.84	1.09	-10.34	<.001 **	0.80	(効果量大)
13	関係構築力	3.46	0.86	4.11	0.78	0.65	-8.29	<.001 **	0.64	(効果量大)
	総得点	35.45	11.26	45.23	10.98	9.78				
	平均	2.73	0.87	3.48	0.84	0.75				

\*\* p<.01

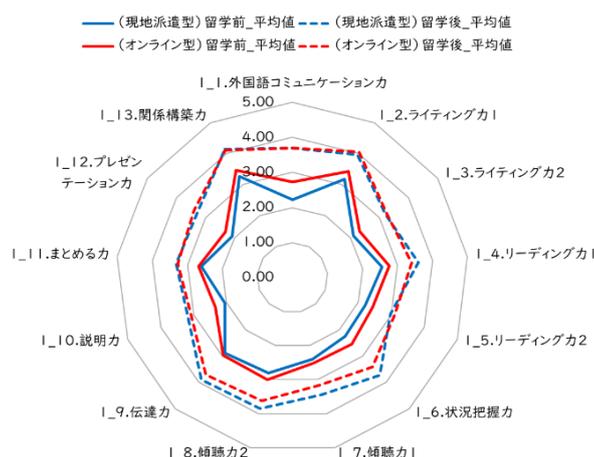


図 7. 外国語運用能力 13 指標に関する自己評価の平均値: 留学前後の比較

### 異文化適応力 5 指標の自己評価結果

異文化適応力 5 指標においては、現地派遣型短期留学プログラムでは、5 指標すべての留学前後の自己評価平均値の差が 0.5 以上あり、留学後に自己評価が高まる方向に回答が推移した (表 4、図 8)。一方、オンライン型短期留学プログラムは、「倫理観・規律性」を除く、4 指標において、留学前後の自己評価平均値の差は 0.5 以上あり、留学後に自己評価が高まる方向に回答が推移した (表 5、図 8)。「倫理観・規律性 (0.43)」は留学後に自己評価が高まる方向に回答は推移していたが、留学前後の自己評価平均値の差が 0.5 を若干下回った

(表5、図8)。次に、Wilcoxon の符号付き順位検定では、現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムともに、全5指標において、留学後の自己評価は、留学前の自己評価よりも統計的に有意に高かった(表4・5)。

表4. 現地派遣型短期留学前後での比較:異文化適応力5指標の自己評価  
(Wilcoxon の符号付き順位検定)

No	異文化適応力 5指標	留学前		留学後		平均差 (研修後- 研修前)	Wilcoxonの符号順位 検定(両側検定)		効果量 (r)	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		Z	p		
1	異文化理解	3.29	0.82	4.23	0.68	0.95	-9.88	<.001 **	0.72	(効果量大)
2	自文化理解1	3.31	0.83	4.16	0.74	0.85	-9.79	<.001 **	0.71	(効果量大)
3	自文化理解2	2.54	0.78	3.31	0.85	0.77	-9.82	<.001 **	0.72	(効果量大)
4	多様性の受容	3.55	0.82	4.32	0.71	0.77	-9.22	<.001 **	0.67	(効果量大)
5	倫理観・規律性	3.41	0.84	4.05	0.78	0.63	-8.49	<.001 **	0.62	(効果量大)
	総得点	16.11	4.08	20.07	3.77	3.97				
	平均	3.22	0.82	4.01	0.75	0.79				

\*\* p<.01

表5. オンライン型短期留学前後での比較:異文化適応力5指標の自己評価  
(Wilcoxon の符号付き順位検定)

No	異文化適応力 5指標	留学前		留学後		平均差 (研修後- 研修前)	Wilcoxonの符号順位 検定(両側検定)		効果量 (r)	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		Z	p		
1	異文化理解	3.36	0.83	4.02	0.75	0.67	-8.49	<.001 **	0.66	(効果量大)
2	自文化理解1	3.19	0.91	3.76	0.83	0.57	-8.03	<.001 **	0.62	(効果量大)
3	自文化理解2	2.47	0.79	3.17	0.82	0.70	-9.15	<.001 **	0.71	(効果量大)
4	多様性の受容	3.69	0.84	4.33	0.67	0.64	-8.37	<.001 **	0.65	(効果量大)
5	倫理観・規律性	3.47	0.81	3.90	0.77	0.43	-7.16	<.001 **	0.56	(効果量大)
	総得点	16.17	4.19	19.18	3.83	3.01				
	平均	3.23	0.84	3.84	0.77	0.60				

\*\* p<.01

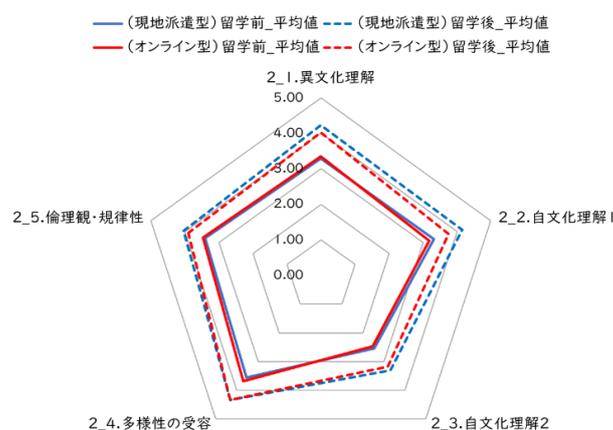


図8. 異文化適応力5指標に関する自己評価の平均値:留学前後の比較

## 行動力9指標の自己評価結果

行動力9指標においては、現地派遣型短期留学プログラムでは、9指標すべての留学前後の自己評価平均値の差が0.5以上あり、留学後に自己評価が高まる方向に回答が推移した(表6、図9)。一方、オンライン型短期留学プログラムでは、「柔軟性1」「問題解決力2」を除く7指標において、自己評価平均値の差は0.5以上あり、留学後に自己評価が高まる方向に回答が推移した(表7、図9)。「柔軟性1(0.44)」「問題解決力2(0.40)」は留学後に自己評価が高まる方向に回答は推移していたが、留学前後の自己評価平均値の差は0.5未満であった(表7、図9)。次に、Wilcoxonの符号付き順位検定では、現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムともに、全9指標において、留学後の自己評価は、留学前の自己評価よりも統計的に有意に高かった(表6・7)。

表6. 現地派遣型短期留学前後での比較: 行動力9指標の自己評価  
(Wilcoxonの符号付き順位検定)

No	行動力9指標	留学前		留学後		平均差 (研修後- 研修前)	Wilcoxonの符号順位 検定(両側検定)		効果量 (r)
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		Z	p	
1	チャレンジ精神	3.02	0.98	3.97	0.85	0.96	-10.05	<.001**	0.73 (効果量大)
2	積極性1	2.71	0.95	3.71	0.90	1.00	-10.37	<.001**	0.76 (効果量大)
3	積極性2	2.49	0.87	3.77	0.82	1.28	-11.30	<.001**	0.82 (効果量大)
4	問題解決力1	3.28	0.82	3.94	0.77	0.66	-8.96	<.001**	0.65 (効果量大)
5	問題解決力2	2.94	0.71	3.63	0.78	0.69	-9.12	<.001**	0.67 (効果量大)
6	柔軟性1	3.20	0.80	3.85	0.74	0.64	-8.75	<.001**	0.64 (効果量大)
7	柔軟性2	2.82	0.79	3.86	0.80	1.03	-10.62	<.001**	0.78 (効果量大)
8	情報収集力1	3.15	0.75	3.89	0.71	0.74	-9.64	<.001**	0.70 (効果量大)
9	情報収集力2	3.11	0.693	3.85	0.71	0.74	-9.81	<.001**	0.72 (効果量大)
	総得点	26.72	7.36	34.47	7.08	7.75			
	平均	2.97	0.82	3.83	0.79	0.86			

\*\*p<.01

表7. オンライン型短期留学前後での比較: 行動力9指標の自己評価  
(Wilcoxonの符号付き順位検定)

No	行動力9指標	留学前		留学後		平均差 (研修後- 研修前)	Wilcoxonの符号順位 検定(両側検定)		効果量 (r)
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		Z	p	
1	チャレンジ精神	3.13	1.00	3.84	0.91	0.71	-8.05	<.001**	0.63 (効果量大)
2	積極性1	2.86	0.95	3.60	0.93	0.74	-8.81	<.001**	0.68 (効果量大)
3	積極性2	2.72	0.98	3.57	0.94	0.85	-9.02	<.001**	0.70 (効果量大)
4	問題解決力1	3.09	0.93	3.72	0.89	0.63	-7.71	<.001**	0.60 (効果量大)
5	問題解決力2	3.10	0.82	3.49	0.88	0.40	-6.78	<.001**	0.53 (効果量大)
6	柔軟性1	3.17	0.84	3.61	0.76	0.44	-6.84	<.001**	0.53 (効果量大)
7	柔軟性2	2.93	0.79	3.60	0.79	0.67	-8.85	<.001**	0.69 (効果量大)
8	情報収集力1	3.18	0.90	3.75	0.83	0.57	-8.22	<.001**	0.64 (効果量大)
9	情報収集力2	3.17	0.83	3.75	0.83	0.57	-8.08	<.001**	0.63 (効果量大)
	総得点	27.35	8.03	32.93	7.78	5.58			
	平均	3.04	0.89	3.66	0.86	0.62			

\*\*p<.01

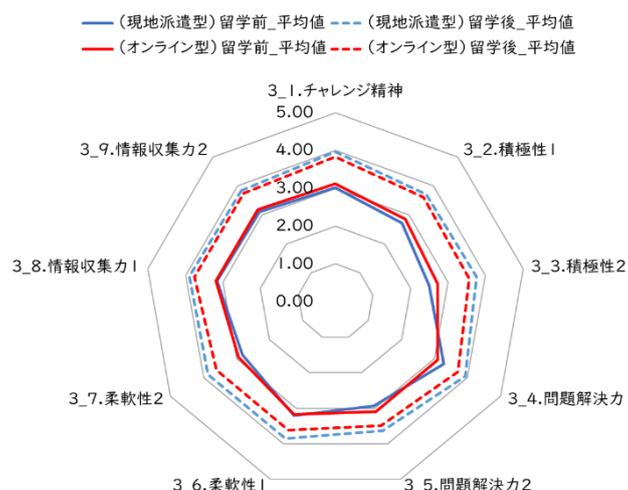


図9. 行動力 9 指標に関する自己評価の平均値: 留学前後の比較

## 2種類の短期留学プログラム間の学習成果の比較

現地派遣型短期留学プログラム参加者とオンライン型短期留学プログラム参加者間で、3つのキーコンピテンシー（外国語運用能力、異文化適応力、行動力）の27指標に関する留学前後の自己評価平均値の差に統計的に有意な差があるかを確認するため、Mann-Whitney のU 検定を行った（表8）。

外国語運用能力に関しては、「ライティング力1」「ライティング力2」「リーディング力2」「まとめる力」「プレゼンテーション力」5指標を除く、8指標において、現地派遣型短期留学プログラム参加者とオンライン型短期留学プログラム参加者の2つのプログラム参加者群の留学前後の自己評価平均値差の間に有意な差が認められた。

異文化適応力に関しては、「自文化理解2」「多様性の受容」2指標を除く、3指標において、現地派遣型短期留学プログラム参加者とオンライン型短期留学プログラム参加者の2つのプログラム参加者群の留学前後の自己評価平均値差の間に有意な差が認められた。

行動力に関しては、「問題解決力1」1指標を除く、8指標において、現地派遣型参加者とオンライン型参加者の2つのプログラム参加者群の留学前後の自己評価平均値差の間に有意な差が認められた。

表8. 現地派遣型・オンライン型プログラムの参加者間の比較：  
キーコンピテンシーの留学前後の自己評価の差  
(Mann-Whitney の U 検定)

外国語運用能力13指標		N	平均値	中央値	標準偏差	U	p
後前1_1.外国語コミュニケーション力	現地派遣型	188	1.47	1.00	0.62	9759.00	<.001 **
	オンライン型	166	0.98	1.00	0.68		
後前1_2.ライティング力1	現地派遣型	188	0.79	1.00	0.72	13888.50	0.050
	オンライン型	166	0.64	1.00	0.69		
後前1_3.ライティング力2	現地派遣型	188	1.09	1.00	0.86	14076.00	0.084
	オンライン型	166	0.92	1.00	0.72		
後前1_4.リーディング力1	現地派遣型	188	1.04	1.00	0.81	11164.00	<.001 **
	オンライン型	166	0.64	1.00	0.76		
後前1_5.リーディング力2	現地派遣型	188	0.75	1.00	0.78	14865.00	0.399
	オンライン型	166	0.66	1.00	0.71		
後前1_6.状況把握力	現地派遣型	188	1.48	1.00	0.82	9484.50	<.001 **
	オンライン型	166	0.88	1.00	0.78		
後前1_7.傾聴力1	現地派遣型	188	1.05	1.00	0.89	11884.00	<.001 **
	オンライン型	166	0.67	1.00	0.78		
後前1_8.傾聴力2	現地派遣型	188	1.03	1.00	0.86	11614.50	<.001 **
	オンライン型	166	0.61	1.00	0.94		
後前1_9.伝達力	現地派遣型	188	1.01	1.00	0.81	12571.50	0.001 **
	オンライン型	166	0.73	1.00	0.77		
後前1_10.説明力	現地派遣型	188	1.12	1.00	0.75	11244.00	<.001 **
	オンライン型	166	0.73	1.00	0.70		
後前1_11.まとめる力	現地派遣型	188	0.72	1.00	0.85	14387.00	0.169
	オンライン型	166	0.60	0.50	0.75		
後前1_12.プレゼンテーション力	現地派遣型	188	1.20	1.00	0.86	14284.00	0.137
	オンライン型	166	1.09	1.00	0.76		
後前1_13.関係構築力	現地派遣型	188	0.88	1.00	0.82	13230.50	0.008 **
	オンライン型	166	0.65	1.00	0.79		
異文化適応力5指標		N	平均値	中央値	標準偏差	U	p
後前2_1.異文化理解	現地派遣型	188	0.95	1.00	0.85	12914.50	0.003 **
	オンライン型	166	0.67	1.00	0.74		
後前2_2.自文化理解1	現地派遣型	188	0.85	1.00	0.81	12733.00	0.001 **
	オンライン型	166	0.57	1.00	0.73		
後前2_3.自文化理解2	現地派遣型	188	0.77	1.00	0.75	14908.00	0.425
	オンライン型	166	0.70	1.00	0.72		
後前2_4.多様性の受容	現地派遣型	188	0.77	1.00	0.82	14292.50	0.139
	オンライン型	166	0.64	1.00	0.77		
後前2_5.倫理観・規律性	現地派遣型	188	0.63	1.00	0.79	13290.50	0.007 **
	オンライン型	166	0.43	0.00	0.66		
異文化適応力5指標		N	平均値	中央値	標準偏差	U	p
後前3_1.チャレンジ精神	現地派遣型	188	0.96	1.00	0.86	13382.50	0.014 *
	オンライン型	166	0.71	1.00	0.88		
後前3_2.積極性1	現地派遣型	188	1.00	1.00	0.88	13164.00	0.006 **
	オンライン型	166	0.74	1.00	0.79		
後前3_3.積極性2	現地派遣型	188	1.28	1.00	0.79	11313.50	<.001 **
	オンライン型	166	0.85	1.00	0.84		
後前3_4.問題解決力1	現地派遣型	188	0.66	1.00	0.75	15345.50	0.771
	オンライン型	166	0.63	1.00	0.83		
後前3_5.問題解決力2	現地派遣型	188	0.69	1.00	0.77	12590.00	0.001 **
	オンライン型	166	0.40	0.00	0.65		
後前3_6.柔軟性1	現地派遣型	188	0.64	1.00	0.78	13604.00	0.021 *
	オンライン型	166	0.44	0.00	0.70		
後前3_7.柔軟性2	現地派遣型	188	1.03	1.00	0.79	11603.00	<.001 **
	オンライン型	166	0.67	1.00	0.70		
後前3_8.情報収集力1	現地派遣型	188	0.74	1.00	0.72	13518.00	0.017 *
	オンライン型	166	0.57	0.00	0.71		
後前3_9.情報収集力2	現地派遣型	188	0.74	1.00	0.70	13677.00	0.027 *
	オンライン型	166	0.57	1.00	0.72		

\* p < .05 \*\* p < .01

これらの結果から、27指標中20指標において、留学前後の自己評価平均値差は、現地派遣型短期留学プログラム参加者のほうが、オンライン型短期留学プログラム参加者よりも統計的に有意に大きく、現地派遣型短期留学プログラム参加者は、オンライン型短期留学プログラム

参加者よりも、留学後にキーコンピテンシーの20指標の向上をより高く評価していたことが明らかとなった。

## 学習成果:外国語苦手意識・海外での人的ネットワーク

### 分析結果の概要

- 外国語に対する苦手意識は、現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムともに、大半の参加者がプログラム参加後に「減少した」と認識していた。
- 海外での外国人の友人等の人的ネットワークの構築については、現地派遣型短期留学プログラム参加者の大半が構築できたと認識していたが、オンライン型短期留学プログラム参加者は半数程度に止まった。

現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラム参加者に、事後アンケート調査で、学習成果に関して、「外国語に対する苦手意識の変化」と「海外での外国人の友人等の人的ネットワークの構築」について、4段階で自己評価を求めた。外国語に対する苦手意識の変化は、「苦手意識が減った(=3)」「苦手意識は変わらない(=2)」「苦手意識が増した(=1)」「もともと苦手意識はなかった(=0)」、海外での外国人の友人等の人的ネットワークの構築については「とてもそう思う(=4)」「そう思う(=3)」「あまりそう思わない(=2)」「そう思わない(=1)」で回答してもらった。現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムによる、上記2点の学習成果に関する回答結果を記述統計で示すとともに、2種類のプログラム間での自己評価の相違について、Mann-WhitneyのU検定を用いて検討した。

### 外国語に対する苦手意識の変化

外国語に対する苦手意識の変化については、現地派遣型では、「もともと苦手意識はなかった」と回答した者を除いた167名うち144名(86.2%)が「苦手意識が減った」、20名(12.0%)が「苦手意識が変わらない」、3名(1.8%)が「苦手意識が増した」と回答した。一方、オンライン型では、「苦手意識が減った」と回答したのは143名中97名(74.0%)に止まり、29名(22.1%)が「苦手意識は変わらない」、5名(3.8%)が「苦手意識が増した」と回答した(表9)。

表9. プログラムを終えて、外国語に対する苦手意識に変化がありましたか。

	現地派遣型		オンライン型	
	回答数	%	回答数	%
もともと苦手意識はなかった	18		12	
苦手意識が減った	144	86.2%	97	74.0%
苦手意識は変わらない	20	12.0%	29	22.1%
苦手意識が増した	3	1.8%	5	3.8%
合計	185	100.0%	143	100.0%

### 海外での外国人の友人等の人的ネットワークの構築

海外での外国人の友人等の人的ネットワークの構築については、現現地派遣型では、回答者の89.7%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答したが、オンライン型では、56.0%に止まった(表10)。

表10. プログラムを通じて、外国人の友人等、人的ネットワークを作れましたか。

	現地派遣型		オンライン型	
	回答数	%	回答数	%
とてもそう思う	80	43.2%	36	25.2%
そう思う	86	46.5%	44	30.8%
あまりそう思わない	15	8.1%	45	31.5%
そう思わない	4	2.2%	18	12.6%
合計	185	100.0%	143	100.0%

### 2種類の短期留学プログラム間の学習成果の比較

現地派遣型およびオンライン型短期留学プログラムの間で、「外国語に対する苦手意識の変化」と「海外での外国人の友人等の人的ネットワークの構築」の学習成果に関する参加者の自己評価に、統計的な有意差があるかを、Mann-Whitney のU検定で検証した。その結果、現地派遣型短期留学プログラムとオンライン型短期留学プログラムの「外国語に対する苦手意識の変化」と「海外での外国人の友人等の人的ネットワークの構築」の学習成果に対する自己評価平均値は統計的に有意な差が認められ、現地派遣型短期留学プログラムの自己評価平均値(「外国語に対する苦手意識の変化(2.84)」;「海外に外国人の友人等の人的ネットワークの構築(3.31)」)のほうがオンライン型短期留学プログラムの自己評価平均値(「外

国語に対する苦手四季の変化(2.70)」;「海外に外国人の友人等の人的ネットワークの構築(2.69)」)よりも高かった(表11)。

表11. 留学プログラムによる、留学成果の自己評価の差  
(Mann-Whitney の U 検定)

		N	平均値	中央値	標準偏差	有意確立( $p$ )	有意差
外国語に対する苦手意識の変化	現地派遣型	167	2.84	3.00	0.41035	<.001	**
	オンライン型	131	2.70	3.00	0.53629		
海外に外国人の友人等の人的ネットワークの構築	現地派遣型	185	3.31	3.00	0.713	.008	**
	オンライン型	143	2.69	3.00	0.989		

Mann-Whitney の U 検定による \*  $P < .05$  \*\*  $P < .01$

## 学習成果：今後の国際交流活動への意欲の向上

### 分析結果の概要

- 今後の国際交流活動（外国語で会話する機会、留学生との積極的な交流、今後の留学プログラムへの参加）に対する意欲は、現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラム参加者ともに、留学後に高まっていた。
- 今後の国際交流活動に対する意欲の向上は、現地派遣型短期留学プログラム参加者より、オンライン型短期留学プログラム参加者のほうが高かった。

現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラム参加学生に、事後アンケート調査で、今後の国際交流活動「外国語で会話する機会」「留学生との積極的な交流」「今後の留学プログラムへの参加」に対する意欲について、4段階（4＝とてもそう思う、3＝そう思う、2＝あまりそう思わない、1＝そう思わない）で回答してもらった。現地派遣型及びオンライン型短期留学プログラムによる、上記3つの今後の国際交流活動に対する意欲に関する回答結果を記述統計で示すとともに、2種類のプログラム間での意欲のレベルの相違について、Mann-WhitneyのU検定を用いて検討した。

### 外国語で会話する機会への意欲

外国語で会話する機会への意欲については、現地派遣型およびオンライン型短期留学プログラムともに、回答者の95%以上が「とてもそう思う」「そう思う」と回答した。しかし、「とてもそう思う」と回答した割合は、オンライン型短期留学プログラムは80.1%、現地派遣型短期留学プログラムは69.2%で、オンライン型短期留学プログラムのほうが10.9%多く、オンライン型短期留学プログラムのほうが、「外国語で会話する機会」への意欲がより高まったことが明らかになった（表12）。

12. 今後も外国語で会話する機会が欲しいと思いますか。

	現地派遣型		オンライン型	
とてもそう思う	128	69.2%	133	80.1%
そう思う	49	26.5%	32	19.3%
あまりそう思わない	8	4.3%	1	0.6%
そう思わない	0	0.0%	0	0.0%
合計	185	100%	166	100%

**留学生との積極的な交流への意欲**

留学生との積極的な交流への意欲については、現地派遣型およびオンライン型短期留学プログラムとも、回答者の90%以上が「とてもそう思う」「そう思う」と回答した。しかし、「とてもそう思う」と回答した割合は、オンライン型短期留学プログラムは66.3%、現地派遣型短期留学プログラムは50.3%で、オンライン型短期留学プログラムのほうが16.0%多く、オンライン型短期留学プログラム参加者のほうが、「留学生との積極的な交流」への意欲がより高まったことが明らかになった(表13)。

表13. 今後、留学生と積極的に交流したいと思いますか。

	現地派遣型		オンライン型	
とてもそう思う	92	50.3%	110	66.3%
そう思う	81	44.3%	51	30.7%
あまりそう思わない	9	4.9%	5	3.0%
そう思わない	1	0.5%	0	0.0%
合計	183	100%	166	100%

**今後の留学プログラムへの参加意欲**

今後の留学プログラムへの参加意欲の向上については、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合が、現地派遣型短期留学プログラムでは82.7%であったが、オンライン型短期留学プログラムでは94.0%であり、11.3%の差があった。さらに「とてもそう思う」と回答した割合が、現地派遣型短期留学プログラムでは34.6%に止まっていたが、オンライン型短期留学プログラムでは58.4%が今後の留学プログラムへの参加意欲が非常に高まったと回答してい

た。これらの結果から、オンライン型短期留学プログラム参加者のほうが、「今後の留学プログラムへの参加」への意欲がより高まったことが明らかになった（表 14）。

表 14. 今後の留学プログラム（オンライン型及び現地研修型）への参加意欲が高まったと思いますか。

	現地派遣型		オンライン型	
	人数	割合	人数	割合
とてもそう思う	64	34.6%	97	58.4%
そう思う	89	48.1%	59	35.5%
あまりそう思わない	26	14.1%	9	5.4%
そう思わない	6	3.2%	1	0.6%
合計	185	100.0%	166	100.0%

## 2種類の短期留学プログラム間の学習成果の比較

現地派遣型とオンライン型短期留学プログラムの間で、今後の国際交流活動「外国語で会話する機会」「留学生との積極的な交流」「今後の留学プログラムへの参加」に対する意欲についての参加者の回答に統計的な有意差が見られるかを Mann-Whitney の U 検定で検証した。その結果、参加者の回答は、オンライン型短期留学プログラムのほうが現地派遣型短期留学プログラムよりも意欲が高く、統計的に有意な差が認められた（表 15）。

これらの結果から、今後の国際交流活動に対する意欲の向上は、現地派遣型短期プログラム参加者より、オンライン型短期留学プログラム参加者のほうが高い傾向にあることが明らかになった。

表 15. 留学プログラムによる、今後の国際的交流活動への意欲の差

		N	平均値	中央値	標準偏差	有意確立(p)	有意差
外国語で会話する機会	現地派遣型	185	3.65	4.00	0.562	.013	*
	オンライン型	166	3.80	4.00	0.419		
留学生との積極的交流	現地派遣型	183	3.44	4.00	0.616	.002	**
	オンライン型	166	3.63	4.00	0.543		
留学プログラムへの参加意欲	現地派遣型	185	3.14	3.00	0.774	<.001	**
	オンライン型	166	3.52	4.00	0.630		

Mann-Whitney の U 検定による \*  $P < .05$  \*\*  $P < .01$

## 付録

付表1.3つのキーコンピテンシー（外国語運用能力、異文化適応力、行動力）の27評価指標

外国語運用能力	外国語コミュニケーション力	外国語を使って、初対面の人も意見や情報のやり取りを行うことができる
	ライティング力1	外国語で簡単な紹介文を書くことができる
	ライティング力2	外国語でレポートや小論文を書くことができる
	リーディング力1	外国語で適切な情報を収集できる
	リーディング力2	アカデミックな書物や論文を読むことができる
	状況把握力	自分にとってあまり馴染みのない環境や状況に身を置いても、外国語を使って人に質問するなどして何が起きているかを理解できる
	傾聴力1	相手の意図することを理解するために、適切な質問をするなどして話の筋をを組み立てながら聞くことができる
	傾聴力2	相手の話す内容がわからないときには、自分が理解できるように、相手に聞き返すことができる
	伝達力	外国語での会話において、適切な語彙や表現方法が思い浮かばないときは、別の言い回しやジェスチャーなどを使って、伝えたいことを表現する
	説明力	話す相手を考え、情報の量や伝達方法を調整しながら、自分の意見や考えを分かりやすく外国語で伝えられる
	まとめる力	様々な意見が出される中で、一方的に否定することなく、みんなが納得できるようにまとめられる
	プレゼンテーション力	外国語で、相手にとって分かりやすい、説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる
	関係構築力	文化背景の異なる人との対話に興味を持ち、相手を尊重する心をもって、協働的な関係性を築けることができる
	異文化適応力	異文化理解
自文化理解1		自分の国の文化のよいところ、よくないところを理解できる
自文化理解2		自国の歴史や文化、社会などについて具体的に伝えるための十分な知識を持ち、それを具体的に伝えられる
多様性の受容		言語、文化、国籍、人種、性別、宗教による多様な価値観があることを認識し、自分との違いを受け止められる
倫理観・規律性		社会や集団のルールがあいまいな状況でも自分の良心と判断に従って適切な行動をとることができる
行動力	チャレンジ精神	新しいことに挑戦する意欲と行動力がある 例)自分から外国語で話しかけたり、質問したりすることができる
	積極性1	言語や文化が異なっても、誰とも積極的に関わることができる
	積極性2	自分から外国語で話しかけたり、質問したりすることができる
	問題解決力1	直面した問題を解決するために、他の人に相談できる
	問題解決力2	直面した問題に取り組み、代替案を探せられる
	柔軟性1	自分の失敗に対してどのように対処すれば良いか考えられる
	柔軟性2	困難な状況や不慣れな環境でもうまく対応できる
	情報収集力1	自分が必要とする情報を様々な方法で収集することができる
	情報収集力2	課題解決のために、適切な情報を選択し活用できる